

上福島西部7.3haの 開発促進を



宇津木 治宣



町長

産業構想拠点に 位置づけている

質問 上福島西部地区7・3ヘクタールの開発促進を。

答弁 町長 この地区は北関東自動車道前橋南ICに近接する交通条件から、流通系土地利用の需要は高いと認識しており、都市計画マスタープランにおいて産業構想拠点に位置づけている。

現状では、市街化区域への編入基準に該当しないことから、町が開発を行うことは困難な現状である。

今後は、県が示している「特定流通業務施設」の基準により、民間会社による開発を進めていただく。

原森のちびっこ広場の 再整備に住民意見を

質問 利根川の河川改修実施に伴い、原森青少年広場・ちびっこ広場も再整備されるが、どのような計画か。

答弁 町長 原森青少年広場・ちびっこ広場の敷地は、



原森青少年広場・ちびっこ広場

河川改修事業によって、現況より1・5メートルの掘削を行う計画である。

質問 進入路や駐車場、トイレ等の再整備に住民意見を反映を。

答弁 町長 原森青少年広場・ちびっこ広場は計画高水位以下に位置する場所であるため、建築物、構造物の設置が難しく、現状復帰を基本に考えている。

進入路や駐車場は再整備後も設置する計画であり、トイレ等

の設置については県と協議を進めている。今後も県及び原森区と連絡を密にして進める。

質問 再整備の費用負担は。

答弁 町長 現況復旧については整備費用は、県が全額負担することになっている。

子どもの貧困対策事業 は

質問 子どもの貧困対策事業、ひとり親無料学習支援事業の取り組みは。

答弁 町長 子どもの貧困対策事業は、子ども食堂や学習支援に参加する児童への文房具の補助等が主である。

ひとり親無料学習支援事業は、赤い羽根共同募金の助成を受け30年度まで実施してきた。今後は、県と町が事業費を出し合い継続する。また、新年度より放課後児童クラブの実施がなくなった西児童館に移してよりよい環境で実施する。

財政健全化、 急務！



原 利幸



町長

限られた財源を適正に配分

質問 財政健全化のため、歳出を見直す必要がある。不要な施策を削減するということが、多くの施策は総合計画により今後3年間継続実施していくものばかりである。途中で中断してよい施策、継続しなければ効果が得られない施策があると考えますが、その見極めは。

答弁 町長 多くの施策は各種計画の中で予定されたものであり、単純に廃止や見直しができるものではない。そこで、予算編成に当たっては、ゼロベースで事業の改廃から検討を進め、時代の変化にそぐわないものについては、大胆な発想と転換によって「スクラップ&ビルド」として見直すこととした。

町民生活に真に必要な事業を見極め「選択」し、重点を置く事業に「集中」するとともに、明らかに事業の必要性が薄れたものについては、勇気をもって「廃止」することを指示した。「事業の廃止や統合」、「実施時

歳入増加への取り組み は

期の見直し」などの観点から検討し、さらに、慣例・前例に従った事務事業の継続が、財政の硬直化を招いている要因の一端であるため、既存単独事業については原則として前年度当初予算額の95%の範囲内で見積もった。

質問 町税収入は増加傾向にあり個人町民税は総所得の増加、固定資産税は新築家屋の増加等により、それぞれ増加していると分析されている。この傾向を生かし、さらに増加額を増やす施策を展開すべきであると考えますがどうか。

答弁 町長 個人町民税では、納税義務者の増加があり、前年比1・9%の増となった。女性の社会進出、共働き世代の増加など、子育て世代を応援する本町の取り組みが芽吹いてきたと思っている。

また、固定資産税では、新築

家屋の増加等により0・6%の増となっており、文化センター周辺まちづくり事業など定住促進の取り組み成果が徐々に広がりを見せているものと思う。

こんな質問もしています

・地域おこし協力隊の活用は



夢や希望はあるのか？